

地名の由来となった 景色

5 八坂神社(熊野町3丁目)

「熊野」という地名は、長徳2年(996)に花山法皇がこの地が紀伊の国(和歌山県)の熊野に似ていると、熊野の代わり「熊野代(くまのだい)」として、八坂神社に熊野権現を祭ったことが起源といわれています。同社では、毎年10月に獅子神事祭が行われており、市の無形文化財に指定されています。



まちの伝統を
感じに行こう



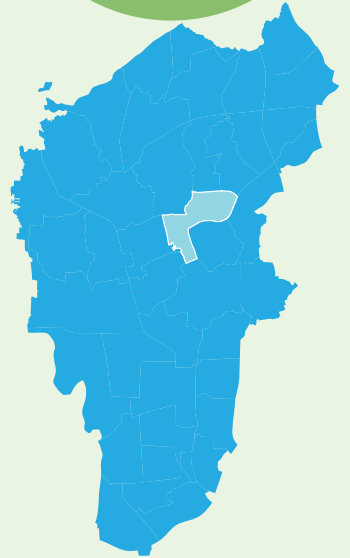
マチカネくんと歩く

まちある記

第17回

かつての村名を小学校に残すまち
熊野町から中桜塚へ

熊野田小学校区



5



第十五中学校

熊野町

4

天竺川

旧大阪中央環状線

◎みんなで遊ぼう!
くまっ子遊び広場

熊野田公民分館(熊野田小学校内)では、毎週土曜日に同校の児童を対象に「くまっ子遊び広場」を開いています。地域ボランティアの指導で、野球やグラウンドゴルフ、手芸などを楽しむ他、服部緑地へ自然観察にも出掛けます。



地域のシンボルだね



斜めに伸びる松

4 熊野東公園 (熊野町2丁目)

勝尾寺街道の南側に面する公園に入ると見える、斜めに伸びた大きなクロマツ。このマツは公園として整備される以前、この場所が屋敷だった頃からあるそうです。



平安時代に寺社が建てられ、古くから集落が形成されたこの地域。歴史を感じるまちなみや伝統行事などは、現在も地域を愛する人々たちによって受け継がれています。

うさぎ
◎ウサギがいたから兎川

深谷池(東豊中町3丁目)を水源とし、熊野町1丁目にある八坂橋付近で天竺川と合流する兎川。その昔、付近に生息した野ウサギの水のみ場所となっていたことが名前の由来といわれています。川岸には、昭和11年(1936)、豊中市と旧熊野田村との合併を記念して植えられた桜が今も残されています。



昭和11年当時の兎川沿岸

ただ創造の一途あるのみ

3 石丸梧平顕彰碑(赤阪1丁目)

交差点の南西角に、木々の茂みに囲まれ、旧熊野田村出身の思想家・石丸梧平(1886-1969)を顕彰する胸像があります。台座には「人生に結論無し ただ創造の一途あるのみ 意味は発見し得る者に輝く」と刻まれています。豊中市名誉市民でノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎さんも、広報とよなかのリレーエッセーで、この人生哲学に同感すると記しています。



惨事を忘れない

2 大風水害記念碑(赤阪1丁目)

昭和9年(1934)に発生した室戸台風は、西日本を中心に死者2,702人も被害を出し、熊野田小学校でも5人の児童と校長先生が犠牲となりました。校舎の北側



にあるこの碑は、犠牲になった人たちと風水害の恐ろしさを忘れないようにと建てられたもので、現在も地元の人たちが献花に訪れるそうです。熊野田小学校では、毎年9月に全校児童で風水害避難訓練を行っており、地域の人たちと共に集団下校に取り組んでいます。

ギョギョ! 魚の車止め

1 青いこみち(夕日丘1丁目)

旧大阪中央環状線から夕日丘公園へと続く「青いこみち」には、魚の形をした車止めがあります。これは、この道がかつて水路であったことを伝えるために設置したものです。隣には、子どもが魚を捕るモニュメントもあります。



◎手塚治虫、最後の伝言

昭和63年(1988)10月、第三中学校(栗ヶ丘町)で豊中市出身の漫画家・手塚治虫さんの講演が行われました。自身の戦争体験から「命の大切さ」を生徒たちに訴えた他、生徒たちのためにと、作品に登場するキャラクターを色紙に描きました。すこやかプラザ(岡上の町)には、色紙をもとに制作した銅板パネルが飾られています。



10月号は、庄内西小学校区をご紹介します。お楽しみに。